

# 地域と協同の 研究センターNEWS

2018年2月25日発行  
162号

【巻頭言】

## 地域の自律と連携を生み出すランドケア

「ランドケア (Landcare)」という言葉 皆さんは聞いたことがあるでしょうか。ランドケアとは1986年にオーストラリアで始まった、地域を主体にした環境管理運動です。ランドケアが画期的だったのは、それまでトップダウン型であった環境政策を転換し、地域住民によって構成される活動グループを環境保全の担い手として位置づけ、活動グループの自律性を尊重しながら、彼らが自助努力では実現できないことを行政や専門家、他の活動グループがサポートする仕組みを構築した点にあります。「自律」と「連携」を通じた問題解決を目指す点にランドケアの大きな特徴があります。

もう一つのランドケアの大きな特徴として、ランドケア・コーディネーター/ファシリテーターと呼ばれる人々の存在があります。彼らは一種の〈触媒〉のような存在で、活動グループへのアドバイスの提供、専門家の紹介、グループ間の調整等を行ったりしています。彼らが草の根レベルで地域住民の活動に徹底的に寄り添うことで、ランドケア活動がより円滑に進められているのです。

このようなランドケアの先進性に注目し、昨年の2017年11月にオーストラリアのランドケア関係者を名古屋に招き、南山大学社会倫理研究所とAustralian Landcare Internationalとの共催で、ランドケア国際カンファレンスを開催しました。そのプレツアールとして、海外参加者の方々を新城市にお連れし、道の駅もつくる新城を始め、木の駅プロジェクトや穂の国森林探偵事務所の活動、四谷千枚田の保全活動等の視察を行いました。参加者は皆一様に奥三河の地域資源の豊かさに感動し、それぞれの視察先での予定時間を大幅に超過するほど活発に質疑応答が行われました。とりわけ、奥三河の森や里山を地域住民が主体となって管理し、人と人、あるいは人と自然とのつながりが再生されつつあることが、まさにランドケアに通ずると皆、感銘を受けておられたことが印象に残っています。オーストラリアのランドケアとの国際連携を通じて、奥三河を始め、日本国内の中山間地域のより豊かな自律と連携を生み出すお手伝いができればと思っています。

籠橋一輝 (かごはし・かずき)

南山大学社会倫理研究所・講師

CONTENTS

▶ 巻頭言：地域の自律と連携を生み出すランドケア / 籠橋一輝・南山大学社会倫理研究所・講師	1	2月1日(木) 地域と協同の研究センター 2月の活動 組合員理事ゼミナル世話人会, 尾張地域懇談会世話人会
▶ 「地域でのささえあい交流会～名古屋市名東区を中心に～」報告一尾張地域懇談会	2	2月2日(金) 愛知の協同組合間協同相談会 2月3日(土) 尾張地域懇談会「地域でのささえあい交流会」 2月7日(水) 三河地域懇談会世話人会 2月8日(木) 協同の未来塾⑧
▶ 『食べものはいのち(生命)』～「くらしと生産をつなぐものづくり」第二弾 / 今泉秀哉	3	2月9日(金) 研究フォーラム「食と農」世話人会 2月10日(土) 東海交流フォーラム分散会進行相談会 2月15日(木) くらしを語りあう会 2月17日(土) くらしと生産をつなぐものづくり③
▶ 協同組合による大学での学び・進路選択支援	4	2月18日(日) 共同購入事業マイスターコース⑦および修了式 2月21日(水) 生協の(未来の)あり方研究会第70回 2月22日(木) 三重地域懇談会世話人会
● 情報クリップ	5	2月23日(金) 常任理事会⑨。2月24日(土)第14回東海交流フォーラム
■ 企画案内等	8	2月26日(月) 市民講座企画検討会⑤ 2月28日(水) 研究フォーラム環境世話人会, 生協総研「公開研究会」

## 「地域でのささえあい交流会～名古屋市名東区を中心に～」報告

主催：研究センター尾張地域懇談会

尾張地域懇談会世話人は尾張地域におけるささえあい実践に着目し、これまで「南医療生協よって横丁(名古屋市緑区)」「同星崎地区(同南区)」「NPO法人・ポトスの部屋(同熱田区)」「わいわい子ども食堂(同北区)」「コープあいちコープくらし・たすけあいの会、同春日井地域福祉を考える会」「豊明市おたがいさまセンターちゃっと」を訪問して取り組みに学ぶことができました。

今回、「名東地域でのつながり(支え合い)のために何が必要か」について2月3日(土)、コープあいち生協生活文化会館を会場に、名東区を中心に行政、協同組合、NPO、協同組織など13組織にお集まりいただき、研究センター会員とともに懇談の場を持ちました。その概要を紹介します。

### ■実践報告■

●**名東区役所福祉課**：名東区の地域包括支援システム構築、在宅医療と介護の連携強化、介護保険連絡会での研修・学習会、認知症カフェの取組み、介護予防事業の推進等

●**(福)名東区社会福祉協議会**：地域支えあい事業、高齢者サロン、居場所づくり、地域支えあい事業は地域福祉推進協議会、コープあいち、生き生き支援センター、名東区役所も加わりワーキンググループで課題を検討中

●**コープあいち福祉サービス名東**：介護保険を活用した住宅改修申請手続き学習会、在宅看護の担い手不足の問題、他団体とのつながりづくり

●**(福)TUTTI**：就労支援B型、食を通して地域とつながるレストラン・生鮮市・配食、グループホーム、地域の人達と楽しむ拠点づくり、情報交流し一緒に取り組めるパートナーがほしい

●**北医療生協**：健康づくり事業の中で組織づくりとして3人以上が集まる班づくり、地域の組合員が気軽に集まれる居場所・たまり場づくり、班を軸にした助け合い

●**年金者組合名東支部**：高齢者の生活がより豊かになるサークル活動、いろんな組織と協同して取り組みたい、会場確保が問題、

●**NPO・あいちあんきネット**：コープあいち、名古屋第一法律事務所、税理士法人OTAの協力で高齢者のくらしの安心・安全と生きる権利を守る事業、葬送支援、金銭管理、納骨・墓地支援、任意後見など、最後までみんなで支えるように

●**コープあいちくらしたすけあいの会名東地域**：困ったときはおたがいさま、幼稚園のママ友で託児、コープあいちコープ上社(お店)でふれあい便(買い物品の代行お届け)を受付、協力会員(担い手)が不足

●**生活支援ネットちくさ**：便利屋さんによる庭の草取り・掃除・簡単な修理補修・電球の玉取り替え、ヘルパーによる散歩の付添い・通院同行・院内見守り、サービス付高齢者住宅にお住まいの方の孤独死、生活支援依頼増に対応できない問題

●**コープあいち生活支援センター**：コープあいちコープ相談センターはくらしの困りごとを生協のサービスや弁護士・ワーカーズ等につなげる、生活支援センター名古屋を立ち上げる

●**NPO法人 たすけあいワーカーズ・コレクティブ愛・I(あいあい)**：「住んでいるところでくらしたいという人をささえる」、ひとり親支援、ワムネット補助金を活用しサロン、マンションの一室を借りて認知症カフェ、生活クラブ生協(食の生協)がきっかけで自分たちのためだけでなく社会のことや政治のことを勉強しながら活動中、エコロ共済とハグくみ共済、ワーカーズ・コレクティブが基本で出資、運営も自分たち、一人一票制、介護・認知症予防・食事作り等の講座、担い手を広げるのが課題、みんなと協同してできるといい

●**北医療生協・東部訪問看護ステーション**：「患者さんを紹介してください」と訪問、北医療生協の訪問看護ステーション内に開設、コープあいち名東居宅と連携、居宅、訪問看護、ヘルパー、福祉用具の提供、看取りの利用者が数人

●**ワーカーコープ・東海事業本部**：雇用されない働き方、組織承認の立法を国会に要請、先進国で労働者協同組合がないのは日本だけ、いろいろな団体と連携したり地域住民と仕事おこし

### ■懇談■

会場の確保はお互いに連携したらどうか/孤独死などの疑いは遠慮なく市役所か警察に連絡を/3日間の研修で担い手の資格取得を名古屋市、名東区、コープあいちで実施中/65歳の定年男性が自分でもやれるゴミ出しのお手伝い、生活圈の中で何かやりたい人はいるはず/体調をくずしていた方が元気になってサロンのお手伝い、お客様にしないで集まった人全員でやれることをやる/組合という組織の枠内だけでなく幅広く地域でつながれると善い、組織の中だけでなく幅広く外に出ることが大事だと、生協のふれあいサロンに参加

### ■まとめ■

情報交流の場として開催、お互いが理解し、情報交換し、つながりが出来上がっていくことが大事、研究センター尾張地域懇談会の立場でも勉強し、考え方をまとめたり、発信したりしてゆきたい。

研究センター事務局・渡辺 勝弘  
(わたなべ かつひろ)

## 『食べものはいのち（生命）』『くらしと生産をつなぐものづくり』第二弾

「くらしと生産をつなぐものづくり」第二弾：“生産者と消費者はどのように協同（共同）するのか”をテーマに、1月13日（土）午前10時からお昼の時間帯でJA ひまわり本店を会場に交流会が開催されました。当日は、JA（生産者）側の参加者が少なく意見交流の深まりという点では、今後に繋げていくべき入り口の機会だったのかもしれませんが、この地域で久しぶりに両者が直接交流し合うことができました。

私の第二弾開催の問題意識は、次のとおりです。

★我が国においては、近年特に農業生産の大規模化と競争原理の導入圧力が高まり、農業の根幹をなしている家族農業経営と多様な担い手の存在をないがしろにしようとする政策の中で地域農業は大きなダメージを受けています。また、生産（者）と消費（者）を意図的に分断し、輸入農産物の拡大と食糧自給率の低下、食糧の安全性への懸念など未来に命を繋いでいくための基本的な生活基盤が揺らいでいます。こうした中で“農産物の地域内循環をめぐる生産者と消費者の役割及び課題”、“直売所などを拠点にした協同活動”などを切り口にして双方の思いを出し合いながら、これからの関係性を模索するきっかけづくりをしていきたい。★

さらに関連してJA（生産現場）として抱えている課題を踏まえての情勢変化は、TPP11の発効を急ぐ動き・日欧経済連携協定の大枠合意・農協法改悪・種子法廃止・卸売市場法改悪の動きなどがあげられますが、世界の趨勢は、我が国の向かう方向とは明らかに異なり、国連は2019年から2028年までを「家族農業の10年」と定め、農業生産の大半を占める家族農業は持続可能な食糧生産や食糧安全保障に貢献できると評価、家族農業への支援を通じて国連が2030年までに貧困や飢餓を撲滅するとの目標を掲げた（SDGs）の達成につなげるとしています。

また、協同組合の事業・組織両面からは、組合の大規模化による組合員参画の希薄化が大きな問題であり、共通の地域を意識した協働活動の機会が乏しくなっています。地域の中の「おたがいさま」精神で生み出す活動や「小さ

ひまわり農業協同組合専務理事 今泉 秀哉  
な協同（協働）活動」の芽を生み出していくことが必要になってきていると思います。

さて、当日の交流会は、双方向の意見交流の域まではいきませんでした。課題提起的な発言もあり、その中のいくつかを紹介します。

- ・行政の行う地域政策は実効性を持ちづらく、協同組合の役割発揮が必要だ
- ・農協と生協の組合員の活動に本来垣根はないのではないか
- ・環境や資源再生における循環型社会では双方向の関係性が重要であり、その意味でこれまで取り組んできた「産消提携」は対等の関係ではなかったのではないか
- ・多くの作目で後継者が確保できず、家族農業の危機を迎えている
- ・直売所での情報発信に期待する、生産者と消費者の交流がもっとできないのだろうか
- ・消費者が生産現場に部分的にかかわる手法・機会づくりは不可能か
- ・「食と健康」がこれからのキーワード、農福連携の取り組みの可能性

これらの発言の中には、大切な視点が多くあり、これからの交流のなかで更に具体的に深めていければいいと考えます。

現在、JAは現政権による「農協改革」と称する理不尽な攻撃に見舞われていますが、本質は「農協改革(つぶし)」という手段を用いての「国内農業つぶし(家族農業経営の切り捨て)」に他なりません。私たちも全力をかけて戦いますが、何と言っても消費者の皆さんの理解と支持なくしては、展望が開けません。消費者と生産者が共に手を取り合っただけの連携した運動の広がりが必要だと感じます。

交流会のあとは、私どもの直売所であるGC豊川を訪ねていただきました。産直出荷者組織協議会の委員長も店内で今季異常な高値である野菜を前に案内をし、有意義な見学タイムになったと報告を受けました。参加者から出された意見の中にもあったように直売所を拠点にした消費者と生産者の交流と相互理解が様々な人々が緩やかに関係することで活発になっていくことを願ってやみません。

(いまいずみ ひでや)

# 協同組合による大学での学び・進路選択支援

研究センター主催で3回の企画を行いました。

## 第一回 12月8日:どのように、大学で協同(組合)を学ぶか

現在、36 大学で協同組合が取り上げられています。食料・農業を含む農学部系が 12 大学、2012 国際協同組合年前後の開講が 7 大学、以降の開講が 8 大学、ワーカーズコープが中心になる開講 3 大学、その他ゲスト講師の参加が 8 大学です。Web 等の調査の為実際はこれ以上あると考えられます。1984 年当時の 71 大学 (2009 年「くらしと協同の研究所『協う』記事) から半減していますが 2012 国際協同組合年を経て広がっています。(1) 学部は: 農学部・大学院農業研究科・生物生産学部・生命環境科学域、経済学部、商学部・大学院商学研究科、商経学部、法文学部、政治経済学部、社会福祉学科、現代福祉学部、人間環境学部、人文学部、教養共通など幅広く、協同組合が多様に紹介されています。(2) 開講主体では「寄付講座(講義)」が増えており、担当教官に加え、コーディネーター(講座企画)とゲスト講師の参加が特徴的です。形式も、通常講義に加え、グループワーク、体験企画もあります。(3) 対象学生は: 「共通科目(1 年生から、2 年生以上)」、「専門科目」にわかれます。

名古屋市立大学と三重大学での講義内容が報告され、2019 年から金城学院大学で開講する計画と意図が紹介されました。名古屋市立大学「現代社会と人と地域のつながり」(教養共通: 2014 年~、受講約 130 名) では「近代社会は自立した個人、合理的に判断する主体を前提に分業・専門化を通じて問題を解決することを目指し、人間の社会進歩に貢献したが、全ての人が自立できるわけではない。その部分をどのようにカバーするかが問われる。協同・つながりの時代的・社会的背景を理解する(向井清史先生)」もの。三重大学人文学部「協同組合論」(2 年生以上: 2016 年~、受講約 90 名) は「協同組合・非営利セクターの資本主義社会における過去、現在、これからの存在意義を問う(青木雅生先生)」もの。金城学院大学人間科学部の「協同組合論」開講趣旨は「協同組合は、政府・市場・地域・福祉をつなぐ「接点」である。“きょうどう”という互助行為による福祉を實踐できるソーシャルウーマン(地域貢献人材)を育成する(柴田学先生)」としています。

## 第二回 1月19日:どのように、協同(組合)を経験・体験する場をつくるか

大学生協東海事業連合より「協同体験セミナー」の概要が紹介されました。2015 年は 3 6 回のべ 71 人、2016 年は 1 4 回のべ 45 人、2017 年度は 19 回のべ 164 人が参加。大学生協、コープあいち、北医療生協、南医療生協、ゆたか福祉会で受け入れ、生産地体験、食の商品開発プロジェクト、協同組合に就職した先輩に学ぶ企画が行われています。ゼミ生が参加した金城学院大学と、受け入れた社会福祉法人ゆたか福祉会、南医療生協双方から報告されました。各報告では(1)「協同体験セミナー」を三年間実施して、学生は生協やまちづくり、食や農業に関心を持っていることがつかめた。インターンシップの後のつながり方が課題。(2) 学生

が「ホウ・レン・ソウの大切さ」、「自分自身への向き合い方(強み、弱み、自己分析の芯)」、「専門実習とは違う市民や当事者との向き合い方への気づき」を学んでいる。(3) 単発でなく連続性のあるインターンシップにすることや事前学習の工夫(協同組合で働く先輩との交流、ゼミ活動との棲み分け、事前学習プログラム開発)が必要。(4) ルールや決め事、教官と受け入れ先との連携、学生にとってのゴールの設定が必要。(5) インターンシップ受入先でのプログラム・受け入れカリキュラムの確立(職場が受け入れ目的を理解すること)が必要等の課題が出されました。

## 第三回 1月28日:、協同(組合)で働き始めるとは。

2015 年から大学生協、北医療生協、南医療生協、コープあいち、ゆたか福祉会 5 者で合同企業展や業界研究セミナーに共同出展し、同時に企業講演で「非営利・協同組合」を紹介している内容が報告され、一~三回をうけてこれからの進め方を相談しました。

向井 忍 (研究センター専務理事・むかいしのぶ)

# 情報 クリップ



メインタイトル・特集など 刊行物名・発行所	目次・主な内容	発行年月 半 定価 税別
<p>▶組合員に喜ばれる 売場づくり・ 商品づくり</p> <hr/> <p><b>NAVI</b> 2018. 2 No. 791</p> <p>日本生活協同組合連合会</p>	<p><b>特集 組合員に喜ばれる売場づくり・商品づくり</b>                  &lt;コープのある風景&gt; ならコープ                  &lt;こんにちは！生協男子ですっ！&gt; コープおおいた 下村卓也さん                  &lt;地域に愛される店づくり・人づくり&gt; みやぎ生協 荒井店                  &lt;私の本ナビ&gt; 富山県生協                  &lt;エッセイ わな猟師の春夏秋冬&gt; 千松信也                  &lt;宅配・現場レポート&gt; 生協ひろしま 三次支所                  &lt;生協大好きママ コプ山さんの 教えて！CO・OP商品&gt;                  CO・OP豚味噌ステーキ                  &lt;日本全国ふだんのくらしを支えたい&gt; ユーコープ                  &lt;想いをかたちにコープ商品&gt;                  減塩カップ麺 CO・OP長崎カステラ                  &lt;☆突撃☆あなたの町の組合員活動&gt; コープいしかわ                  &lt;明日のくらし ささえあうCO・OP共済&gt;                  NPO法人ファザーリングジャパン・関西 大阪いずみ市民生協                  &lt;この人に聴きたい&gt; 手品師・お笑い芸人 マギー審司さん                  &lt;ほっとnavi&gt; 生協コープかごしま エフコープ</p>	<p>2018 年 2 月 A4 判 36 頁 360 円</p>
<p>▶あれから 7 年 福島の現実</p> <hr/> <p><b>社会運動</b></p> <p>2018. 1 No. 429</p> <p>市民センター政策機構</p>	<p><b>特集 あれから 7 年、福島の現実</b>                  I 被災地、避難者たちのいま                  FOR READERS                  原発事故によって引き裂かれた日本                  「住宅支援」打ち切りー区域外避難者の苦悩 フリーライター 吉田千亜                  保養という選択肢を用意する意味 リフレッシュサポート代表 疋田香澄                  避難指示が解除された飯館村のいま 産経新聞記者 大渡美咲                  II 原発、放射能に抗する                  原発は破綻した技術である 工学博士 後藤政志                  甲状腺検査からみた子どもたちへの影響 医学博士 崎山比早子                  不安を口に出せる場合は今後もっと必要になる                  生活クラブふくしま生活協同組合副理事長 緑川順子                  土地と海、農産物・海産物の汚染状況                  生活クラブ連合会品質管理部部長 植田博                  不完全な規制基準を基に再稼働が進む日本                  原子力資料情報室共同代表 伴英幸                  「集団訴訟」を私たちの裁判とするために 編集部                  集団訴訟ー新たな「安全神話」に抗して                  福島原発かながわ訴訟原告団団長 村田弘                  「東電株主代表訴訟」というもう一つの闘い 弁護士 甫守一樹                  III 脱原発に向かう未来                  福島の再生可能エネルギー地帯をゆくー会津・土湯・飯館                  会津電力と生活クラブエナジー                  映画 『おだやかな革命』                  ヨーロッパの脱原発と国民投票 フリーライター 大芝健太郎                  100年後から見た原子力 芸人・記者 おしどりマコ                  韓国語翻訳家の日々 子育ては続くよ 第2回                  針ねずみも自分の子はすべすべだと言う                  韓国語翻訳家・ライター 斎藤真理子                  悼みの列島 日本を語り伝える 第6回                  甲府の街で出会った戦争                  ライター 室田元美</p>	<p>2018 年 1 月 A5判 184 頁 1,000 円 (税別)</p>

メインタイトル・特集など 刊行物名・発行所	目次・主な内容	発行年月 判型 定価 税別
<p>▶JA自己改革の現場から</p> <hr/> <p><b>月刊 J A</b></p> <p>2018. 2 vol. 756</p> <p>全国農業協同組合中央会</p>	<p><b>特集 スゴイ農業、スゴイ J A J A 自己改革の現場から</b>                  水稲と複合の加工用ジャガイモを推進                  — J A みどりの (宮城県) 営農振興の取り組み J A 全中広報部                  農政トピック                  J A グループの国際協力について考える J A 全中 国際企画部 国際企画課</p> <p>きずな春秋 — 協同のこころ— 童門冬二                  私のオピニオン 藤原辰史</p> <p>海外だより [D. C. 通信] 連載 81                  アメリカ農業における農産物輸出の位置づけ 吉澤龍一郎</p> <p>展望 J A の進むべき道                  協同組合として有事に挑む 比嘉政浩 (J A 全中専務理事)</p> <p>短期集中連載 ③                  世界から見れば、歴史から見れば                  ～食・農・暮らし・協同の本質との出会い～                  ダーチャで過ごす豊かな週末! 蔦谷栄一</p> <p>平成 28 年度 J A 経営マスターコース優秀論文紹介                  農林中央金庫理事長賞                  組合員に信頼されるパートナーとなるために                  伊藤貴裕 / J A 遠州夢咲 (静岡県)                  ブラジル・コチア産業組合中央会記念賞                  経営品質による組合員価値                  西 有司 / J A おきなわ (沖縄県)</p>	<p>2018 年 2 月 A 4 判 48 頁 年間予約 5,109 円 (消費税込)</p>
<p>▶先進技術で変わる 小売業の未来</p> <hr/> <p><b>生活協同組合研究</b></p> <p>2018. 2 Vol. 505</p> <p>公益財団法人 生協総合研究所</p>	<p>■巻頭言                  ジャック・マーの野望 大石芳裕</p> <p>▶特集 <b>先端技術で変わる小売業の未来</b>                  先端技術と小売業 江原 淳                  小売業におけるロボット・AI の活用 福田 稔                  中国で広がる無人店舗 小平知良</p> <p>AR (拡張現実) で変わりゆく小売業の販売促進                  — 導入事例から見る効果と課題・展望について— 星野順也</p> <p>空の産業革命は起こるのか                  — ドローン物流の現状と課題— 宮崎達郎</p> <p>■研究と調査                  イタリアの生協の経営概況 — 2016 年度決算状況から— 佐藤孝一</p> <p>■海外情報                  アメリカの協同組合を訪ねて 鶴田 健</p> <p>■時々再録                  路面電車で街づくり — 台湾・高雄 LRT に乗る— 白水忠隆</p> <p>■本誌特集を読んで (2017・12) 田淵英治・高野 智</p> <p>■新刊紹介                  宮本太郎編著『転げ落ちない社会』 秋山 純                  リンダ・グラットン/アンドリュー・スコット著、池村千秋訳                  『L I F E S H I F T 100 年時代の人生戦略』 亀井 隆</p> <p>●2017 年度公開研究会 (2/28・名古屋) のお知らせ                  「女性と子どもの貧困 地域や生協で支援できること」</p> <p>●2017 年度公開研究会 (3/7・福岡) のお知らせ</p>	<p>2018 年 2 月 88 頁 B5 判</p>

メインタイトル・特集など 刊行物名・発行所	目次・主な内容	発行年月 判型 定価 税別
<p>▶ CPTPPから 日米FTAへの道</p> <hr/> <p><b>文化連情報</b> 2018. 2 No. 479</p> <p>日本文化厚生農業協同組合連合会</p>	<p>農協組合長インタビュー (44) 利用者懇談会で組織の活性化 大竹雅彦</p> <p>医療との連携の本格化を迫る介護報酬改定 東 公敏</p> <p>県内の農協福祉事業の統合的運営の検討を 田代洋一</p> <p>CPTPPから日米FTAへの道 安喰拓真</p> <p>第31回厚生連医療材料全国共同購入委員会臨床工学部開催</p> <p>消費税増税に頼らない社会保障財源の提案 (下) 醍醐 聰</p> <p>現代社会と協同組合 (11) 北出俊昭</p> <p>医療・保健・福祉事業と協同組合</p> <p>韓国農業の実相ー日本との比較を通じて (18) 品川 優</p> <p>FTA農業対策とFTA廃業支援 金川達夫</p> <p>第88回東福島厚生連医療材料共同購入委員会開催</p> <p>臨床倫理メディエーション (20) 中西淑美</p> <p>「医療メディエーション」モデルによる意思決定 (5)</p> <p>第8回厚生連メディエーター養成研修会・ 馬場真弓</p> <p>第5回厚生連メディエーター実践者スキルアップ研修会開催 佐伯悟三</p> <p>厚生連医療メディエーター養成研修会を受講して 安友裕徳</p> <p>厚生連医療メディエーター実践者スキルアップ研修会を受講して</p> <p>第4回厚生連放射線科医療機器ライフサイクルコスト会議開催 正手早知子</p> <p>岡田玲一郎の間歇言 (146) 岡田玲一郎</p> <p>成果(出来映え)の評価をどう正当なものにするのか 小磯 明</p> <p>フランスの訪問看護(1) 制度の概要 柴崎有花</p> <p>野の風 ● 変化を楽しむ</p> <p>デンマーク&amp;世界の地域居住 (105) 松岡洋子</p> <p>ボランティアグループ すずの会</p> <p>熱帯の自然誌(23) 岸に沿った浅い海に広がる村 安間繁樹</p> <p>イギリスの社会的企業</p> <p>地域再生と若者支援: SPACE2 (2) 小磯 明</p> <p>地域の特徴と若者が抱える困難</p> <p>「協同」がつながって日本社会を変える!</p> <p>第3回賀川豊彦シンポジウム 熊谷麻紀</p> <p>◆平成30年度医療・介護同時改定を読み解く緊急セミナー開催のお知らせ</p> <p>□自著を語る 地域を支える農協/高橋巖</p> <p>□書籍紹介 神になりたかった男 徳田虎雄/小磯明</p> <p>□書籍紹介 君たちはどう生きるか/小磯明</p> <p>▶線路は続く (119)</p> <p>大船渡線 5割増しの旅/西出健史</p> <p>▶最近見た映画</p> <p>はじめてのおもてなし/菅原育子</p>	<p>2018年 2月 B5判 80頁 文化連情報 編集部 03-3370-2529 *注</p>

地域・協同の運動、協同組合に関する文献資料、協同組合・生協関係の研究所などの調査研究成果や研究センター会員の研究成果などから、比較的入手しやすいと思われるもの、寄贈いただいたもの(♣)などを中心に順不同で紹介しています(主な内容は目次等から事務局が要約しています)。詳細は研究センター事務局までお気軽にお問い合わせください。

企画案内

NPO法人日本ホリスティック医学協会

講演会「笑い与健康長寿～笑い上手は生き方上手」

現代のストレス社会をうまく乗り切る「笑いの効用」。  
あなたの周囲は笑顔のプレゼントを心の中で求めているばかりです。  
笑い上手は生き方上手 当日は笑いの効用ノウハウを学びます。

期日：2018年3月24日（土） 午後2時～4時

場所：ウィルあいち 1Fセミナールーム1・2 名古屋市東区上樫杉町1番地

講師：橋元 慶男氏

心身健康科学協会理事長

参加費：1,800円 \*先着100名申込み順

\*参加申込みは以下ホームページ「申込みフォーム」にて、正式申込みとなります

<http://holistic-chubu.org/event/>

主催：NPO法人日本ホリスティック医学協会中部支部

愛知県一宮市平和1-2-13 担当（長谷川）

電話：0586-46-1273 FAX：0586-46-0367

書籍紹介

「なんとかする」子どもの貧困

著者：湯浅 誠 定価：864円（税込） 発行日：2017/9/8

版型：新書判 ページ数：248ページ 出版社：KADOKAWA

内容紹介：「あの子はラッキー」で終わらせない。第一人者が取材した「解決」の最前線

ある「こども食堂」での話。今日は鍋にしよう、大人たちが鍋料理を作ったところ、高校生の女の子が「みんなで鍋をつつくって、本当にあるんだね」と言った。彼女には、その経験がなかった。みんなで鍋をつつくというのは、テレビの中でだけ起こるフィクションだと思っていた。スーパーマンが空を飛ぶように。同様の話を、よく聞く。

「あたりまえ」の経験や知識が欠如している子どもたちが増えている。

この子たちが世の中を回すようになったとき、世の中はどうなるんだろうか？このような状況に腐らず、諦めず、1ミリでも対策を進める人たちが、まだこの国にはたくさんいる！

「あの子はラッキー」で終わらせない。1ミリを動かすどんな試みが巷に溢れているか。その諸相を紹介していく。

貧困問題の第一人者が取材した、「解決」の最前線！



KADOKAWAホームページから

地域と協同の研究センター 3月の活動予定	3月19日(月)研究フォーラム職員の仕事を考える世話人会, 尾張地域懇談会世話人会, 「2030年へのメッセージ…ビッグデータ (AI/IoT) のくらしへの影響と協同組合」鳥居弘志先生 (名城大生協理事長)
3月2日(金)協同の未来塾⑨および修了式, 研究フォーラム「地域福祉」世話人会	3月23日(金)常任理事会⑩, 2018年名古屋市立大学寄付講義相談会
3月5日(月)岐阜地域懇談会世 (13:30~/会場未定)	3月24日(土)第12回三河地域懇談会「豊橋生協会館に寄るまいかん」
3月8日(木)アジアの平和、食と文化フェア実行委員会	3月30日(金)生協の(未来の)あり方研究会第71回
3月9日(金)愛知の協同組合間協同相談会	
3月10日(土)東海交流フォーラムまとめ会, 第4回理事会	
3月12日(月)市民講座企画検討会⑥最終回	
3月16日(金)組合員理事セミナー⑩修了式	

地域と協同の研究センターNEWS162号

発行日2018年2月25日定価200円(税・送料込み)

年会費には購読料が含まれています

発行 特定非営利活動法人 地域と協同の研究センター 代表理事 西川 幸城

〒464-0824 名古屋市千種区稲舟通1-39 TEL 052-781-8280 FAX 052-781-8315

E-mail AEL03416@nifty.com HP <http://www.tiiki-kyodo.net/>